

今朝の聖書の記録はマタイによる福音書に記されている「荒野の誘惑」とほぼ同じです。両方とも4章1節から始まっていますし、「石をパンに変えたらどうだ」という悪魔の誘惑が最初に置かれているのも共通していますが、後は順番が入れ替わっています。何故そうなったのでしょうか？マタイはユダヤ人として国のシンボルであった神殿が関心の的でしたが、ルカは当時の世界を軍事支配していたローマ人の不安が現れているのかもしれない。

最初の「石をパンに」の誘惑では申命記8:3の言葉で、2番目の「わたしを拝めば」の誘惑では申命記6:13の言葉で、3番目の「神の子ならここから飛び降りたらどうだ」には申命記16:16の言葉で答えられ、全て申命記の言葉で答えておられます。申命記は創世記、出エジプト記、レビ記、民数記のベースとなった律法書の根幹です。BC538年頃ユダヤの国が再建された時に聖典として朗読されました。BC200年頃預言書も加えられたものがイエス様時代の聖書です。悪魔は詩編91篇の言葉を引用してイエス様を誘惑しますが、イエス様が荒野で悪魔の誘惑に遭われたAD27年頃は詩編は聖書ではありませんでした。

今、私たちはロシアのウクライナ侵攻によって揺り動かされ、試されています。ヴィクトル・ビアンコという人の「悪魔の聖書、The Satanic Bible 悪魔のように生きてみないか」という本があります。「破局に立つ論理」という副題が付いていて、アメリカでも数百万部売れたと言いますから余程人々の心をつかんだ本ようです。現在の日本では、連続強盗事件や振り込み詐欺事件などが頻発しています。先週の日曜日に大阪で8人組が通りがかりの人を襲って殴るけるの暴行を加える事件が連続して起きました。ロシア軍によるウクライナの発電所爆破など、この寒い冬に人間のする事かと信じられない攻撃が続いています。国連の安全保障理事会は機能せず、大国が自国の主張をするばかりで対話が成り立っていません。だんだん、聖書を読む人が減って「悪魔の聖書」を読む人の方が多くなって来たのかと思うような世界になっています。

イエス様が来られた時代も同じで、外国の武力侵略や経済格差を無視することは出来ないし、個人であれ国家であれ全て存在するものは摩擦を起こしますが、聖書には私達が遭遇する課題を解決するヒントも注意すべき事項もみな記されていると理解し、イエス様のみ言葉に立っていかに生きるべきかお考えになったのだから、我々は尚更み言葉に聞いて現実社会に対応する知恵を与えられ、方法論を打ち立て、希望と勇気を持って生きて行こうと決意しましょう。